



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

新生児科

新生児科のご紹介

当院の新生児病棟には、生まれた直後から生後1か月までの赤ちゃんが年間380人ほど入院してきます。赤ちゃんの体重は300g台から4,000g台までと幅広く、入院の理由は早産で体重が小さい、予定日頃に生まれたけれど元気がない、呼吸が苦しい、お腹の病気がある、などさまざまです。

当院は大分県で唯一の総合周産期母子医療センターを備えており、小児外科、眼科、心臓血管外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科といった他の診療科とも協力しながら治療を行っています。

新生児病棟は、NICU(新生児集中治療室)に9床、新生児回復病床に24床のベッドを持っていますが、そのほとんどが保育器で、人工呼吸器をつけるお子さんが年間100人はいます。手術も年間15件ほど行っています。開業産婦人科から入院受け入れの依頼があれば、新生児専用の救急車(カンガルー号:写真)に医師が同乗して赤ちゃんを迎えにいきますが、その出動件数は年間100件前後です。

外来では開業小児科から紹介のあった赤ちゃんを診察したり、新生児病棟を退院したお子さんの長期的な発達を診たりしています。また、医療的ケアが必要なお子さんが家族と一緒に生活していけるよう、サポート体制を整えることにも力を入れています。

出生の瞬間は人の一生の中で最も劇的な変化をとげるときです。一生にかかわる大切な時期を新生児科としてサポートしていきたいと思っています。

(第二新生児科 部長 赤石 睦美)



カンガルー号



感染管理室

抗菌薬適正使用 支援チーム(AST)について

医療現場において感染症を制御する(感染症の発生を未然に予防し、また発生した感染症を制圧する)ためには「院内感染防止対策」と「感染症診療支援」が2つの歯車のように重要です。

「院内感染防止対策」については以前から**感染対策チーム(ICT:Infection Control Team)**が、感染症の発生状況の把握(サーベイランス)や手指衛生などの感染予防策の推進を中心に活動してきました。

「感染症診療支援」では薬剤耐性(AMR:Antimicrobial Resistance)対策の推進、特に抗菌薬の適正使用の推進の観点から、**抗菌薬適正使用支援チーム(AST:Antimicrobial Stewardship Team)**の設置が望まれ、当院でも2018年4月から活動しています。

抗菌薬適正使用支援とは、個々の患者に対して最大限の治療効果を導くと同時に、有害事象を最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できる(最適化する)ようにする目的で、主治医が抗菌薬を使用する際に、感染症専門の医師や薬剤師、臨床検査技師、看護師らが支援を行うことです。

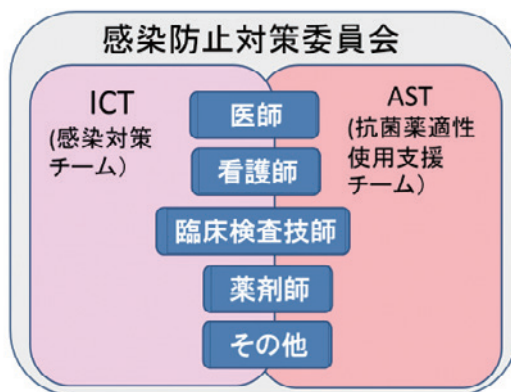
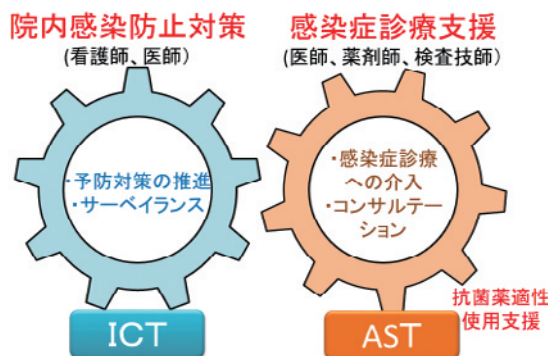
安易な(不適切な)抗菌薬の使用は耐性菌を発生あるいは蔓延させる原因となるため、抗菌薬適正使用支援を推進することは耐性菌の出現を防ぐ、あるいは遅らせることができ、医療コストの削減にも繋がることが報告されています。

当院では**ICT/AST**が感染症制御のため日々活動しています。



(感染管理室室長 医師 山崎 透)

感染制御のための2つの歯車



(裏面をご覧ください)